

科目名	神経障害 I						
科目名(英)	Neuropathy I						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	峰岡 哲哉		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. パーキンソン病とパーキンソンニズムの違いについて説明できる。2. パーキンソン病を捉えるための適切な情報収集が出来、問題点と目標の考え方が理解できる。3. パーキンソン病に対する運動療法の項目を挙げ、理論的根拠を理解した上で施行することが出来る。4. 運動失調の分類と代表的疾患を挙げることができる。5. 運動失調を捉えるための適切な情報を収集できる。6. 運動失調に対する運動療法の項目あげ、理論的根拠を理解した上で実際に施行することが出来る。7. その他の神経疾患について、代表的疾患を挙げ、理学療法の方法を説明できる。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:	△	
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		適切な情報収集と目標設定から各疾患から考えら得る問題点をあげその根拠を説明できる。	
	○	○		○		パーキンソン病の病態把握とその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		運動失調の病態は空くとその運動療法について根拠を理解して説明できる。	
	○	○		○		各神経疾患の運動療法についてその目的と根拠を理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 病気がみえる Vol7 脳・神経 2. パーキンソン病に対する標準的理学療法介入						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	科目オリエンテーション 中枢神経系の解剖・生理				教科書の予習をしておく。	
	2	パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理① パーキンソン病について:パーキンソン病の病態・生理②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	パーキンソン病について:評価と問題点				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	パーキンソン病の理学療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	パーキンソン病について(ケーススタディ)				授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	運動失調症の病理と脳機能解剖① 運動失調症の病理と脳機能解剖②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	運動失調の評価と問題点				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	運動失調の理学療法				授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	運動失調の理学療法(ケーススタディ)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	筋萎縮性側索硬化症と多発性筋炎の病態生理				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	神経難病に対する治療アプローチの原則(ICF)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	パーキンソン病、運動失調症 症例検討 実技テスト含む				授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	パーキンソン病、運動失調症 症例検討 実技テスト含む				授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	国家試験対策				授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ				国家試験問題で全体の理解を確認を図る。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○		○		80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意							

科目名	神経障害Ⅱ						
科目名(英)	NeuropathyⅡ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松木 直人		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて理学療法業務での患者治療など		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1)脳血管障害の概念を理解する 2)脳血管障害のMRI画像診断を学ぶ 3)脳血管障害の検査・測定技術を説明し施行できる 4)脳血管障害の急性期・回復期・維持期の理学療法を説明できる 5)脳血管障害のADLの視点を知り、介助用法やリスク管理について説明できる						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				脳解剖および脳機能解剖を学び、脳血管障害の病態について説明できる。	
	○	○				MRIおよびCT画像の診方を学び、病態把握に必要な基本的な知識を基に説明できる。	
	○	○				脳血管障害の検査・測定を選択し、その目的と結果の考察を説明できる。	
	○	○				急性期、回復期、維持期における理学療法の目的と役割を説明できる。	
	○	○				脳血管障害の運動療法の目的とその方法について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)原寛美・吉尾雅春(編集):脳卒中理学療法の理論と技術(改定第2版)。メジカルビュー社。 2)森惟明・鶴見隆正著:PT・OT・STのための脳画像のみかたと神経所見。医学書院。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	脳血管障害の概念 内容:脳とは?				教科書の予習をしておく。	
	2	脳血管障害の概念 内容:脳卒中とは?				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	脳血管障害の評価 内容:脳血管障害の評価②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	脳血管障害の動作分析・歩行分析 内容:脳血管障害の評価(動作分析から解る事)				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	脳血管障害の急性期理学療法 内容:脳血管障害の急性期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	脳血管障害の回復期理学療法 内容:脳血管障害の回復期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	脳血管障害の維持期理学療法 内容:脳血管障害の維持期とは、その評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	脳血管障害の高次脳機能 内容:脳血管障害の高次脳機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	脳血管障害のCT・MRI・ADL・上肢機能 内容:脳の構造と機能と見方とADL・上肢機能の評価と治療				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	脳血管障害の装具療法 内容:脳血管障害の装具療法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	脳血管障害の評価・治療の統合と解釈 内容:脳血管障害の評価・治療の統合と解釈				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	国家試験対策 内容:脳血管障害に関する問題①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	国家試験対策 内容:脳血管障害に関する問題②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	中間テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害 I						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	園田剛之		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 骨関節系の基礎について知る。 2. 各疾患の病態について知る。 3. 各疾患の理学療法について知る。 4. 各疾患に対する評価から理学療法プログラムまで理解する。 5. 各疾患に対する理学療法を実施できる。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				骨関節疾患に関わる解剖学的知識を整理することができる。	
	○	○				各疾患の病態を理解し、適切な理学療法について説明することができる。	
	○	○	○			各疾患に対する理学療法を安全に実施することができる。	
	○	○				各疾患に対し、的確な評価を挙げ、理学療法プログラムの立案ができるようになる。	
	○	○				ケーススタディを通し、問題点を把握し、その臨床推論過程を整理することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 標準整形外科 第14版 井樋栄二・吉川秀樹 他 監修 医学書院 2019 2. 運動器の運動療法 第1版 小柳磨毅他編 羊土社 2017						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション(骨関節障害の捉え方) 肩関節障害の捉え方(運動学との繋がりを理解する)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	肩関節障害の理学療法(実技) 上肢機能障害の理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	3	上肢機能障害の理学療法(実技) 肩関節障害の理学療法(ケーススタディ)				授業資料の復習をしておくこと。	
	4	体幹機能障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 体幹障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	体幹障害に対する理学療法(実技) 体幹障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	6	股関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 股関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	股関節障害に対する理学療法(実技) 股関節障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	8	膝関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 膝関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	膝関節障害に対する理学療法(実技) 膝関節障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	10	足関節障害に対する理学療法(運動学との繋がりを理解する) 足関節障害に対する理学療法(実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	足関節障害に対する理学療法(実技) 足関節障害に対する理学療法(実技)				授業資料の復習をしておくこと。	
	12	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	13	下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ 下肢関節機能障害に対する考え方 ケーススタディ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
	14	国家試験問題演習				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記実技)	◎	○	○			80%
	小テスト	◎	◎				10%
	実習レポート	○	◎				10%
履修上の注意							

科目名	骨関節障害Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	山下 慶三・筒口さゆり		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	本講義では、臨床的に多くみられる体幹機能障害に対する理学療法の考え方を学び、脊髄損傷、関節リウマチの病態理解からADL指導までを学んでいく。体幹機能障害に対する理学療法については実技を主体とし体験を通し、理解を深めていく。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
				実技:	△	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				体幹機能障害を呈する疾患について理解でき説明できる。	
	○	○		○		体幹機能障害に対する理学療法評価・治療を指導の下で実践できる。	
	○	○				脊髄損傷の病態、合併症のメカニズムを理解し説明できる。	
	○	○		○		脊髄損傷の高位レベルの判断ができ、残存レベル毎のADL指導を実践できる。	
	○	○				関節リウマチの病態、特徴を理解し、ADL指導を実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	1. 井桶栄二・吉川秀樹 他編: 標準整形外科 第14版. 医学書院 2020 2. その他:授業の中で紹介します						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 体幹機能障害に対する理学療法 (疾患:椎間板ヘルニア)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	体幹機能障害に対する理学療法 (疾患:腰部脊柱管狭窄症・脊椎圧迫骨折 他)				授業資料の復習をしておくこと。	
	3	体幹機能障害に対する理学療法 (実技):評価				授業資料の復習をしておくこと。	
	4	体幹機能障害に対する理学療法 (実技):治療				授業資料の復習をしておくこと。	
	5	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ				授業資料の復習をしておくこと。	
	6	体幹機能障害に対する考え方 ケーススタディ				授業資料の復習をしておくこと。	
	7	関節リウマチの病態・臨床症状・治療内容と治療方針				授業資料の復習をしておくこと。	
	8	関節リウマチの理学療法の考え方(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	9	脊髄損傷の概要(症状・合併症 など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	10	脊髄損傷の概要(症状・合併症 など)				授業資料の復習をしておくこと。	
	11	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	12	四肢麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	13	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	14	対麻痺に対する理学療法(評価・アプローチ・ADL指導・歩行指導)				授業資料の復習をしておくこと。	
	15	まとめ				これまでの学習内容のまとめとして再度復習を行います。配布資料を持参してください。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを5回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				80%
	小テスト	○	○		○		20%
履修上の注意							

科目名	内部障害Ⅱ						
科目名(英)	Internal Disability Studies respiratory organs Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	今山 隆士		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として 病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	1. 運動に必要なエネルギー代謝と循環応答を理解する 2. 循環器系の解剖と生理を理解する 3. 心電図を読むことができる 4. 虚血性心疾患の病態と心臓弁膜症と大動脈の疾患について学習する						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		内部障害領域において理学療法の変遷を説明できる。	
	○	○				内部障害領域において循環器・代謝疾患の現状を説明することができる。	
	○	○				内部障害により起こりうる身体機能、日常生活の問題について説明できる。	
	○	○				循環器・代謝理学療法の実施過程を説明することができる。	
○	○		○			チーム医療において理学療法士に求められる役割を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	15レクチャーシリーズ理学療法テキスト「内部障害理学療法循環・代謝 第2版」石川朗+木村雅彦 編 参考文献:2)奈良勲,鎌倉矩子監修,標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学,医学書院、3)黒澤一,佐野裕子,呼吸リハビリテーション,学研						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	循環器系および代謝系に関する構造と機能			教科書を確認しておく		
	2	エネルギー代謝と栄養			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	3	心電図・不整脈の診かた			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	4	運動耐容能とその評価			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	5	病態・検査と治療 虚血性心疾患			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	6	病態・検査と治療 心臓弁膜症と心筋症			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	7	病態・検査と治療 大動脈および末梢動脈疾患			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	8	病態・検査と治療 心不全			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	9	心臓リハビリテーション総論			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	10	心疾患の理学療法の評価			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	11	心疾患の理学療法の実際			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	12	代謝系リハビリテーション総論 糖尿病・腎不全			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	13	病態・検査と治療 糖尿病			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
	14	腎臓リハビリテーションの実際			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う		
15	まとめ			授業前に小テスト問題を解いておく 授業後に再度小テストを解き復習を行う			
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎		○		30%
履修上の注意							

科目名	小児発達障害						
科目名(英)	Childhood Developmental Disorders						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松岡 美紀・松崎 哲治		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として児童施設に従事		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	・小児理学療法の考え方、対象疾患について理解する。特に脳性麻痺を通して、小児の対象者に対する理解を深め、理学療法評価、治療までの考え方を学ぶ。						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				小児理学療法の考え方、対象疾患について説明できる	
	○	○				原始反射と姿勢反射について説明できる	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について大まかに説明できる。	
	○	○				脳性麻痺の異常発達について説明できる	
	○	○				脳性麻痺の評価と治療について説明できる	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他 : 小児理学療法テキスト 南江堂 2010 その他：国家試験を使って、ワーク形式で行っていきます。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 小児理学療法の考え方				授業内容に該当する指定教科書の部分を読んでおく	
	2	脳の発達と随意運動の始まり				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	3	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について①				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	4	原始反射・立ち直り反応・平衡反応について②				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	5	脳性麻痺の概念・病態について 脳性麻痺のタイプ別特徴について				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	6	NICUの理学療法・評価について(GMFCS・GMFM・PEDIなど) グループワーク				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	7	中間テスト					
	8	脳性麻痺の特異的運動発達について(重症心身障害児とは) グループワーク				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	9	脳性麻痺の特異的運動発達について(両麻痺) グループワーク				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	10	脳性麻痺の特異的運動発達について(アテトーゼ) グループワーク				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	11	脳性麻痺の評価(ケーススタディ)				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	12	脳性麻痺の評価と解釈(ケーススタディ)				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	13	脳性麻痺の治療の考え方(ケーススタディ)				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
	14	その他の小児疾患について(筋ジストロフィー・広汎性発達障害含む)				担当の範囲を予習してまとめる 課題ノートをとめる	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で予習をもとに発表してもらおう。また、授業中の挙手での発言も採点する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	レポート	○	○				20%
	中間テスト	◎	○				20%
履修上の注意							

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	2単位	時間数	120時間	担当者	理学療法学科教員		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 3年						
授業概要	指導・監督の下、これまでに修得した検査・測定技術を駆使し、対象者の障害像を捉える。具体的には、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に評価項目を選択し、理学療法評価学等で学んだ問診、情報収集、ROM-T、MMT、感覚検査、動作観察などの基本的な検査・測定を実施する。次に、得られた評価結果に対して解剖学、生理学、運動学、臨床医学、理学療法治療学、日常生活活動学等の知識を基に解釈を行い、機能障害と能力障害の結びつきを理解する。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習: ○	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		知識・技術・人格が理学療法の三本柱であることを深く心に刻み、専門職としての向上・充実を図るための態度を修得できる	
		○	○	○		検査測定 of 知識や技術を実際の患者に実施できる。	
	○	○				収集した情報および実施した個々の検査結果を基にして患者像を捉え、主要な問題を把握できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1						
	2						
	3						
	4						
	5	・評価実習事前セミナー:2022年1月31日～2月5日(土) OSCEによる診療技能練習と試験を実施					
	6	国家試験問題を利用した知識面の整理と実力テストの実施					
	7	コミュニケーション講座によるソーシャルスキル向上 メンタルケア講座を実施					
	8						
	9	・評価実習:2022年2月7日～2月25日(金) ※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	10						
	11	・評価実習事後セミナー:2022年2月28日～3月5日(土) 各施設で学んだ事、担当症例のまとめなどを作成し、発表会を実施					
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	・評価実習事前セミナー:事前OSCEおよび実力テストなどを実施 ・評価実習:実習状況報告書など ・評価実習事後セミナー:実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		60%
	事前セミナー	◎	◎	◎	◎		20%
	事後セミナー	◎	◎		◎		20%
履修上の注意							